

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
文理学「数理・データサイエンス・AI入門」	2	○	○								
情報リテラシー	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(1回目～4回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(1回目、4回目、5回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(1回目、5回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(4回目、5回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(2回目、4回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(1回目、5回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(6回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(5回目、6回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(3回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(3回目、5回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(3回目、5回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(3回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(5回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知る ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(4回目、5回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(3回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(3回目、4回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(5回目、6回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(6回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(5回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(4回目～6回目) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(5回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(6回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(3回目～6回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues) 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(2回目、5回目)、「情報リテラシー」(2回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(2回目、5回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(2回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(2回目、4回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(2回目) ・AIサービスの責任論 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(4回目、5回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(4回目、5回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(1回目、2回目、5回目)、「情報リテラシー」(2回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(2回目、5回目)、「情報リテラシー」(2回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(2回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数) 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(3回目、7回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値) 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(7回目)、「情報リテラシー」(12回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い) 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(7回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値) 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(7回目) ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡) 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(7回目)、「情報リテラシー」(13回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出) 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(3回目、7回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(7回目)、「情報処理」(6回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない) 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(3回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ) 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(7回目)、「情報リテラシー」(11回目、13回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(3回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) 「文理学『数理・データサイエンスAI入門』(3回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均) 「情報リテラシー」(6回目～10回目) ・データの並び替え、ランキング 「情報リテラシー」(6回目～10回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート) 「情報リテラシー」(6回目～10回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。 ・学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。
--

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
(This area is intentionally left blank for the user to enter the lecture content.)

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 人 女性 人 (合計 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
生活科学科	41	80	160	21	21											21	13%
保育科	33	70	140	17	0											17	12%
言語コミュニケーション学科	14	20	40	3	3											3	8%
音楽科	4	20	40	0	0											0	0%
商科	48	40	80	20	18											20	25%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	140	230	460	61	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	13%

大学等名 徳島文理大学短期大学部

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤) 28 人 (非常勤) 22 人
- ② プログラムの授業を教えている教員数 8 人
- ③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) 岡部 千鶴 (役職名) 短期大学部長・教授

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
数理・データサイエンス・AI教育推進委員会
 (責任者名) 梶山 博司 (役職名) 委員長

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
数理・データサイエンス・AI教育推進委員会規程

- ⑥ 体制の目的
- これからのデジタル社会において「数理・データサイエンス・AI」に関する基礎的な知識や技能を身につけ、日常生活や仕事等で使いこなせることが、文理を問わず全ての学生に求められている。そのため、本学では、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に準拠した教育プログラム(リテラシーレベル)を大学と短期大学部の全学科に、また、(応用基礎レベル)を理工学部と人間生活学部開設し、令和5年度から実施しており、令和6年度の認定を目指している。そこで、学内に「数理・データサイエンス教育推進委員会」を置き、本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの構成・内容・サポート体制を充実させ、点検・評価を行い、本プログラムの改善・進化を図る。

- ⑦ 具体的な構成員
- | | | | | |
|-----|---------|------------|------------|--------|
| 委員長 | 理工学部 | ナノ物質工学科 | 副学長・学部長・教授 | 梶山 博司 |
| 委員 | 理工学部 | 電子情報工学科 | 学科長・教授 | 古谷 彰教 |
| 委員 | 理工学部 | 電子情報工学科 | 教授 | 山本 由和 |
| 委員 | 理工学部 | 電子情報工学科 | 教授 | 河合 浩行 |
| 委員 | 人間生活学部 | 食物栄養学科 | 副学長・学部長・教授 | 石堂 一巳 |
| 委員 | 人間生活学部 | メディアデザイン学科 | 学科長・教授 | 篠原 靖典 |
| 委員 | 人間生活学部 | メディアデザイン学科 | 教授 | 古本 奈奈代 |
| 委員 | 人間生活学部 | メディアデザイン学科 | 准教授 | 加治 芳雄 |
| 委員 | 短期大学部 | 生活科学科 | 学部長・科長・教授 | 岡部 千鶴 |
| 委員 | 短期大学部 | 商科 | 科長・教授 | 則包 光徳 |
| 事務局 | 情報センター | センター長 | | 田尾 公生 |
| 事務局 | 情報センター | 係長 | | 松田 和也 |
| 事務局 | 徳島キャンパス | 教務部 | 部長 | 西 裕治 |
| 事務局 | 徳島キャンパス | 教務部教務課 | 課長補佐 | 多田 一子 |
| 事務局 | 香川キャンパス | 教育研究支援課 | 課長 | 細川 典宏 |
| 事務局 | 香川キャンパス | 教務部教務課 | 係長 | 安藝 和加 |

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	13%	令和6年度予定	20%	令和7年度予定	30%
令和8年度予定	40%	令和9年度予定	50%	収容定員(名)	460

具体的な計画

本学の「徳島文理大学短期大学部数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」は全1年生を対象とする全学共通教育科目である「文理学」の「数理・データサイエンス・AI入門」7コマと一般総合科目の「情報リテラシー」から構成されており、令和5年度の履修率の実績としては13%である。短期大学部の「文理学」はこれまで、選択となっていたが、令和6年度からは必修に変更した。また、保育科と生活科学科食物専攻の「情報リテラシー」は選択となっていたが、令和6年度からは選択必修とするなど、履修者数・履修率の向上を図ることとしている。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムの「文理学」は理事長の「建学の精神について」、学長の「大学でなぜ学ぶのか」などにはじまり、各学科ごとの「スタディ・スキルズ」、「地域学」など、新入生の大学生活のスタートアップを支援する授業であり、必修科目である。さらに、この「文理学」の授業は各学科ごとの「スタディスキルズ」以外の時間は、むらさきホールで両キャンパスの1年生全員がそろって授業を受けている。本プログラムを構成するもう一つの一般総合科目「情報リテラシー」は選択科目もあるが、大学における基礎的な情報スキルを身につけるということで、もともとほとんどの学生が履修している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

令和5年度のプログラムの開始にあわせて、本学のHPに本プログラムについてのページを開設するとともに、新入生ガイドに「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)が始まります！」のページを掲載し、各学科の新入生オリエンテーションで、担任から学科毎に新入生全員の本プログラムの履修を呼びかけている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

令和4年度中に令和5年度の4月当初から実施期間としてのプログラムが実施できるよう、プログラムを策定し、令和6年度の認定制度への申請を目標に計画を進める旨を定例部局長会、定例合同教授会にかけ、学内に共通理解を図るとともに、できるだけ全員の履修を呼びかける旨、全学科の教員に依頼した。また、本学では担任・チューター制度を導入しており、入学後、個別面談を実施するなど、細やかなサポート体制をとっている。学生部学生支援課では事務職員が各学科の学生生活支援を担当しており、履修指導、生活指導等を行っている。教務課、教育研究支援課の担当者は単位修得、各種資格取得状況などを管理し、様々な学生相談にも応じる体制をとっている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学では、全ての教員がオフィスアワーを設定しており、シラバスにはオフィスアワー曜日、時間、場所を記載しており、授業内容の質問等について、対面による相談体制が整っており、多くの学生が活用している。また、本学はGoogleと契約しており、GoogleClassroom、GoogleMeets、GoogleFormsなどを全教職員が無料で使えるようになっている。特に教員は対面の授業であっても、学生をサポートするツールとして、個別の質問に答えたり、授業の資料、課題等をデータで配布するなど、GoogleClassroomを様々な活用している。本学はウイングネットとも契約しており、オンディマンド形式の学修補助教材「ベーシックウイング」を学生が学内外からアクセスして、高等学校、中学校等の各教科の授業コンテンツを視聴することができるようになっている。令和5年度からは、高校の「情報Ⅰ」も視聴可能となっている。また、本プログラムが実施されるようになり、「ベーシックウイング」の数学の視聴数が急増している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

徳島文理大学数理・データサイエンス・AI教育推進委員会

(責任者名) 梶山 博司

(役職名) 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>教員は学内システム(教職員グループウェア・学生ポータルシステム)やGoogle Classroomにより学生の出欠状況の確認、レポートや課題の配信、提出状況を把握できるようになっており、学修状況を随時把握できるようにしている。また、プログラムの履修・取得状況及び成績評価等のデータは教務部教務課において学務システムよりダウンロードし、「数理・データサイエンス・AI教育推進委員会」に送られ、委員会で各学科ごとのプログラムの履修・取得及び成績評価等の状況を分析・検証している。令和5年は対象科目の履修者数が45名、修了者数が42名、履修者数を収用定員で割った履修率は10%であった。今後は本プログラムの改善・充実を図り、本プログラムの履修について、新入生オリエンテーション等での履修指導をさらに強化し、履修者、修了者の増加に繋げていきたい。</p>
学修成果	<p>本プログラムを履修することで、次のような能力(学修成果)を身につけることを目的として実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。 ・学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。 <p>このため、FD研究部会により全学的に実施している「全学授業アンケート」の結果等をもとに「数理・データサイエンス・AI教育推進委員会」において、これらの学修成果を総合的に分析することによって、本プログラムを検証・評価し、プログラムの改善充実に関係付けていく。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本学においては、全ての科目、全ての学生を対象にFD研究部会が「全学授業アンケート」を前・後期ごとに実施しており、本プログラムの構成科目についても、受講者全員に授業アンケートを実施し、学生の理解度等を分析している。アンケート項目のうち、「わかりやすさ」について、プログラムの構成科目の「文理学」では、「わかりやすい内容であった」「どちらかというわかりやすい内容であった」をあわせて、78.0%、もう一つの構成科目の「情報リテラシー」では、「わかりやすい内容であった」「どちらかというわかりやすい内容であった」をあわせて、93.1%となっており、本学の教育プログラムについて、学生の内容の理解度はかなり高いといえる。今後も本教育プログラムの改善充実に関係、理解度をさらに一層向上させていきたいと考えている。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>全学授業アンケートの結果で満足度について、「文理学」では満足、どちらかといえば満足をあわせて、92.8%、「情報リテラシー」では、96.6%となっており、本学の教育プログラムはかなり高い満足度であったと言える。また、「授業をとおして、もっと学んでみたいと思うようになった」など、本教育プログラムに対して、さらに発展的な学修を希望するなどの意見も多く見られた。こうしたことから、本教育プログラムの修得者の後輩等他の学生への推奨度は高いものと推察される。また、本教育プログラムの専用ページにおいて受講の感想等の意見を掲示し、講義受講の推奨に活用していく予定である。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本学では新入生が大学の使命や目的、建学精神を理解して勉学に邁進する強い意志と卒業に至る勤勉な態度を自ら育てることを目的として全学共通教育科目として「文理学」を実施しており、全学部・学科で必修科目としている。令和5年度から、この「文理学」に「数理・データサイエンス・AI入門」を7コマ、7人の教員が1コマずつ担当するオムニバス方式で設定し、徳島キャンパスは「むらさきホール(収用定員1314人)」、香川キャンパスは「村崎サイメモリアルホール(収用定員896人)」にキャンパスごとに1年生全員が入り、対面で実施している。本教育プログラムはこの「文理学」と「情報リテラシー」とで構成されている。「情報リテラシー」は選択、必修は学科によって異なるが、大学での学修に欠かせないパソコンをうまく使いこなすために必要な科目として、もともと履修率が高い科目であり、令和6年度からは保育科と生活科食物専攻の「情報リテラシー」は選択必修としている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本プログラムは令和5年度の入学生から実施しており、修了者はまだ、卒業していない状況である。また、本学では就職支援部が今年度より卒業生や卒業生の就職先の企業、団体等に対してアンケートを実施する予定となっている。今後は、本教育プログラムを修了した卒業生における採用状況や企業評価を把握する仕組みを構築し、プログラムの改善・充実に繋げていきたい。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学では、就職支援部が地元企業等と本学の教育内容や学修成果に関する意見交換会を実施しており、今後は本プログラム修了者の学修成果についても、学生の採用者側としての意見や提言を聴取し、プログラムの改善・充実に繋げていきたい。また、自己点検評価・評価活動の客観性、公平性を担保し、教育の内部質保障を図ることを目的として、経済産業界関係者、県教委、県高等学校長協会進学指導部会長等外部の評価委員に本学の自己点検・評価報告書の点検・評価を依頼し、各評価基準項目についての意見を聴取しているが、令和6年度の自己点検・評価報告書には特記事項として、本学の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を取り上げており、本プログラムについての外部評価委員からの意見も聴取し、プログラムの改善・充実に繋げたい。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラムは、①数理・データサイエンス・AIを活用することの「楽しさ」や「学ぶことの意義」を重点的に教え、学生に好奇心や関心を高く持ってもらう魅力的かつ特色ある教育を行うこと、また、数理・データサイエンス・AIを活用することが「好き」な人材を育成し、それが自分・他人を含めて、次の学修への意欲、動機付けになるような「学びの相乗効果」を生み出すことを狙うこと、②カリキュラムを実施するにあたっては、本学の教育目的、分野の特性、個々の学生の学習歴や習熟度合い等に応じて、モデルカリキュラムの中から適切かつ柔軟に選択・抽出し、有機性を考慮した教育を行うこと、③実データ、実課題を用いた演習など、社会での実例を題材に数理・データサイエンス・AIを活用することを通じ、現実の課題と適切な活用法を学ぶことをカリキュラムに取り入れること、などを念頭に置いて教育プログラムを策定した。本プログラムの構成科目における授業アンケート結果から、前述の①～③の観点について、各授業科目レベルでの検証・評価を実施し、改善充実に繋げている</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本学では、全学的に学生に対して「授業評価アンケート」を前・後期末に実施している。本教育プログラムの構成科目全てにおいても授業アンケートを行っており、授業の分かりやすさ、学生の満足度、改善点などの把握に努めている。さらに、授業評価アンケート結果について、本教育プログラムの授業科目レベルにおいて、点検・評価を行うことで、授業の「分かりやすさ」、授業内容・水準が学生に適切であるかどうか教育の質向上に向けた改善を行っている。令和6年度は令和5年度の授業アンケート結果をもとに「数理・データサイエンス・AI教育推進委員会」で本教育プログラムの検証・評価を行い、プログラムの見直しを行うとともに、質の向上に取り組む予定である。</p>



【短期大学部生活科学科生活科学専攻】

【科目名】 文理学[Bunri-philosophy]

科目番号	13178	担当教員名	藤本 和賀代	単位	2単位		
科目群	一般	必修・選択	選択	開講期	後期	対象年次	1年
授業概要							
徳島文理大学の建学精神「自立協同」について、本学の歴史とともにその意味を理解する。「なぜ大学で学ぶのか」を理解し、公演・演奏会などを聴き大学生活を豊かにする。論理的思考とプレゼンテーションの訓練。遍路道をたどりながら地域について考察する。また、「数理・データサイエンス・AI入門」（1回～7回）では社会におけるデータ・AI利活用の技術などの最新動向とそれに伴う社会の変化について学ぶ。							
到達目標							
<p>(1) 知識・理解；自らの将来像を描くために大学で何をすべきかを理解する。 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できるようになる。</p> <p>(2) 技能・表現；自らの将来像を実現するための方法・技能を磨く。</p> <p>(3) 思考・判断；自らの将来を自己責任で決定する。</p> <p>(4) 関心・意欲・態度；自らの将来について模索する。</p>							
授業計画				授業形態		授業時間外学習	
[1]	徳島文理大学の建学精神と歴史（村崎正人理事長）			講義	学習したことをまとめる。30分		
[2]	なぜ大学で学ぶのか（田村学長）			講義	学習したことをまとめる。30分		
[3]	数理・データサイエンス・AI入門① データサイエンス・AIをなぜ学ぶのか - 日本社会の変化 -			講義	学習したことをまとめる。30分		
[4]	数理・データサイエンス・AI入門② データサイエンス・AIをどのように学ぶのか - 「文理融合」とは -			講義	学習したことをまとめる。30分		
[5]	数理・データサイエンス・AI入門③ データデザイン力を身につけよう			講義	学習したことをまとめる。30分		
[6]	数理・データサイエンス・AI入門④ 学習するコンピュータとその応用			講義	学習したことをまとめる。30分		
[7]	数理・データサイエンス・AI入門⑤ デジタル社会の基礎知識			講義	学習したことをまとめる。30分		
[8]	数理・データサイエンス・AI入門⑥ AI技術とデータ分析の基礎知識			講義	学習したことをまとめる。30分		
[9]	数理・データサイエンス・AI入門⑦ データ・AI利活用に必要な統計学の基礎			講義	学習したことをまとめる。30分		
[10]	学習ポートフォリオについて			講義	学習したことをまとめる。30分		
[11]	各学部・学科での学び			講義	学習したことをまとめる。30分		
[12]	各学部・学科での学び			講義	学習したことをまとめる。30分		
[13]	各学部・学科での学び			講義	学習したことをまとめる。30分		
[14]	地域貢献の取り組み発表会			発表	学習したことをまとめる。30分		
[15]	遍路ウォーク：歩き遍路			講義	学習したことをまとめる。30分		
[16]	遍路ウォーク：歩き遍路			講義	学習したことをまとめる。30分		
[17]	遍路ウォークを終えて発表会（学部代表）			発表	学習したことをまとめる。30分		
[18]	徳島県政について（徳島県知事）			講義	学習したことをまとめる。30分		
評価方法							
提出レポート80% 学習態度20%による評価点 評価フィードバックは面談時のおこなう。							
教科書							
プリント配布							

参考図書

備考

生活科学専攻の教員で分担

科目ナンバー：02BS101L

オフィスアワー藤本先生＝火曜日、9：30～13：10、藤本研究室

実務経歴：大阪文化服装学院非常勤講師平成13年～25年、京都芸術大学非常勤講師平成17年～25年

奈良県立高等技術専門校教員平成26年



【短期大学部生活科学科食物専攻】

【科目名】 文理学(Introduction to Tokushima Bunri University)

科目番号	13007	担当教員名	坂井 真奈美	単位	2単位		
科目群	一般	必修・選択	選択	開講期	後期	対象年次	1年
授業概要							
<p>新入生が、建学精神「自立協同」や大学の使命・目的等を理解し、建学精神のもと、勉学に邁進する強い意志と、卒業に至る勤勉な態度を持ち、学生の本分を全うできるように学ぶ。さらに、本学での勉学がアイデンティティと愛校心を醸成することを願い、「文理学」は設置されている。全ての科目の基礎となる内容である。また、「数理・データサイエンス・AI入門」（1回～7回）では社会におけるデータ・AI利活用の技術などの最新動向とそれに伴う社会の変化について学ぶ。</p>							
到達目標							
<p>ディプロマ・ポリシーに示されているとおり、修得した知識と技能を活用し、栄養士・食のスペシャリストとしての実践力や表現力を身につけていることを目標とする。</p> <p>①知識・理解 徳島文理大学の建学精神と歴史を理解する。 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できるようになる。</p> <p>②技能・表現 徳島県の歴史や地域の特徴について説明することができる。</p> <p>③思考・判断 学生の本分を全うするための方法を判断することができる。</p> <p>④関心・意欲・態度 なぜ大学で学ぶのか考えようとするすることができる。</p>							
授業計画		授業形態		授業時間外学習			
[1]	徳島文理大学の建学精神と歴史（全学部共通講座Ⅰ）	講演および質疑応答		【予習】キャンパスガイドを読む（30分）。 【復習】徳島文理大学の建学精神と歴史について講演内容をまとめ、レポートを提出する（30分）。			
[2]	なぜ大学で学ぶのか（全学部共通講座Ⅰ）	講演および質疑応答		【予習】キャンパスガイドを読む（30分）。 【復習】大学での学びについて講演内容をまとめ、レポートを提出する（30分）。			
[3]	数理・データサイエンス・AI入門① データサイエンス・AIをなぜ学ぶのか 日本社会の変化（全学部共通講座Ⅱ）	講演および質疑応答		【復習】日本社会の変化について講演内容をまとめ、レポートを提出する（30分）。			
[4]	数理・データサイエンス・AI入門② データサイエンス・AIをどのように学ぶのか「文理融合」とは（全学部共通講座Ⅱ）	講演および質疑応答		【復習】「文理融合」について講演内容をまとめ、レポートを提出する（30分）。			
[5]	数理・データサイエンス・AI入門③ データデザイン力を身につけよう（全学部共通講座Ⅱ）	講演および質疑応答		【復習】データデザイン力について講演内容をまとめ、レポートを提出する（30分）。			
[6]	数理・データサイエンス・AI入門④ 学習するコンピュータとその応用（全学部共通講座Ⅱ）	講演および質疑応答		【復習】学習するコンピュータについて講演内容をまとめ、レポートを提出する（30分）。			
[7]	数理・データサイエンス・AI入門⑤ デジタル社会の基礎知識（全学部共通講座Ⅱ）	講演および質疑応答		【復習】デジタル社会について講演内容をまとめ、レポートを提出する（30分）。			
[8]	数理・データサイエンス・AI入門⑥ AI技術とデータ分析の基礎知識（全学部共通講座Ⅱ）	講演および質疑応答		【復習】AI技術とデータ分析について講演内容をまとめ、レポートを提出する（30分）。			
[9]	数理・データサイエンス・AI入門⑦ データ・AI利活用に必要な統計学の基礎（全学部共通講座Ⅱ）	講演および質疑応答		【復習】統計学の基礎について講演内容をまとめ、レポートを提出する（30分）。			
[10]	大学での学びについて：遍路ウォーク・新入生セミナー説明および学習ポートフォリオ作成（学部学科別スタディスキルズ）	演習		【予習】学習ポートフォリオの内容について考えてくる（30分）。			

			【復習】学部長講話を聴いて感じたことをレポートにまとめ提出する（15分）。
【11】	大学での学びについて：2年生に学ぶ（学部学科別スタディスキルズ）	演習	【予習】2年生に聞きたいことを考える（30分）。 【復習】学習したこと、感じたことをまとめる（30分）。
【12】	大学での学びについて：栄養士の仕事について（学部学科別スタディスキルズ）	講義およびグループワーク	【予習】キャンパスガイドを読む（30分）。 【復習】栄養士の仕事について学習したことをまとめる（30分）。
【13】	遍路ウォーク：歩き遍路（地域学）	フィールドワーク	【予習】遍路道について調べる（60分）。 【復習】実践して感じたことを、レポートにまとめ提出する（30分）。
【14】	地域貢献の取り組み発表会（地域学）	講演および質疑応答	【復習】発表内容をまとめ、レポートを提出する（30分）。
【15】	徳島県政について（地域学）	講演および質疑応答	【復習】徳島県政について講演内容をまとめ、レポートを提出する（30分）。

評価方法

評価方法：レポート（80%）、受講態度（20%）

なお、レポートの講評等は、Google Classroom等で学生にフィードバックする

教科書

キャンパスガイド、新入学生オリエンテーション資料

参考図書

イラストで学ぶ栄養士・管理栄養士の世界 末永美雪編集 学建書院 1800円+税

めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション 小野章史編著 第一出版 2200円+税

備考

①【オフィスアワー】金曜日16：20～17：50 研究室（1号館9F1907室）

②【科目ナンバー】02BS101L

③【実務経験】昭和63年～平成6年 徳島市衛生課および保健センター・児童課 主任栄養士

④開講は通年。受講登録は前期後期の登録が必要。

⑤学部学科別スタディスキルズは、食物専攻の教員全員で担当する。



【短期大学部保育科】

【科目名】 文理学

科目番号	13190	担当教員名	下内 新吾	単位	2単位		
科目群	一般	必修・選択	選択	開講期	後期	対象年次	1年
授業概要							
本学の歴史と建学精神、大学の意義、進路についての講演と、大学・保育科での学習を円滑に行うために必要な基礎的知識や技術についての講義・演習を行う。そのことを通して本学学生としてのアイデンティティ・帰属意識・連帯感を持ち、目標を持ち充実した大学生活を送ることができるようになることを目標とする。また、「数理・データサイエンス・AI入門」（1回～7回）では社会におけるデータ・AI利活用の技術などの最新動向とそれに伴う社会の変化について学ぶ。							
到達目標							
①本学の建学の精神及び歴史の概略について説明できる（知識・理解） ②講義や演習で学んだことを実践に結びつけることができる（技能・表現） ③学習ポートフォリオやEラーニング、図書館など本学の教育資源を活用して学ぶことができる（思考・判断） ④講演や体験を通して視野を広げ、大学生活での目標や将来の希望を明確にもって主体的に学ぶ（関心・意欲・態度） ⑤データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できるようになる。（知識・理解）							
授業計画		授業形態		授業時間外学習			
[1]	徳島文理大学の建学精神と歴史 村崎 正人 理事長	講義		【予習】キャンパスガイドを読む（30分） 【復習】コメント用紙に感想を書く（30分）			
[2]	なぜ大学で学ぶのか 田村 禎通 学長	講義		【予習】キャンパスガイドを読む（30分） 【復習】コメント用紙に感想を書く（30分）			
[3]	遍路ウォーク・新入生セミナー説明および学習ポートフォリオ作成	講義・演習		【予習】学習ポートフォリオに必要事項を記入する（1時間） 【復習】訪問する寺院について調べる（1時間）			
[4]	遍路ウォーク	実習		【予習】遍路について調べたことをまとめる（1時間） 【復習】遍路ウォークを体験して気づいたことをレポートにまとめる（1時間）			
[5]	数理・データサイエンス・AI入門① データサイエンス・AIをなぜ学ぶのか 日本社会の変化 総合政策学部 青野 透先生	講義		【予習】日本社会の変化について調べる（30分） 【復習】コメント用紙に感想を書く（30分）			
[6]	数理・データサイエンス・AI入門② データサイエンス・AIをどのように学ぶのか 「文理融合」とは 総合政策学部 松村 豊大先生	講義		【予習】「文理融合」について調べる（30分） 【復習】コメント用紙に感想を書く（30分）			
[7]	数理・データサイエンス・AI入門③ データデザイン力を身につけよう 人間生活学部 古本奈奈代先生	講義		【予習】データデザインについて調べる（30分） 【復習】コメント用紙に感想を書く（30分）			
[8]	数理・データサイエンス・AI入門④ 学習するコンピュータとその応用 理工学部 河合 浩行先生	講義		【予習】学習するコンピュータについて調べる（30分） 【復習】コメント用紙に感想を書く（30分）			
[9]	数理・データサイエンス・AI入門⑤ デジタル社会の基礎知識 理工学部 古谷 彰教先生	講義		【予習】デジタル社会について調べる（30分）			

			【復習】コメント用紙に感想を書く (30分)
【10】	数理・データサイエンス・AI入門⑥ AI技術とデータ分析の基礎知識 理工学部 山本 由和先生	講義	【予習】AI技術とデータ分析について 調べる (30分) 【復習】コメント用紙に感想を書く (30分)
【11】	数理・データサイエンス・AI入門⑦ データ・AI活用に必要な統計学の基礎 人間生活学部 松本 新功先生	講義	【予習】データ・AIの活用に必要な統 計学について調べる (30分) 【復習】コメント用紙に感想を書く (30分)
【12】	地域貢献の取り組み発表会	講義	【予習】大学のホームページで地域貢 献の事例を読む (30分) 【復習】コメント用紙に感想を書く (30分)
【13】	徳島県政について (仮)	講義	【予習】徳島県のホームページを見る (30分) 【復習】講演の感想を書く (30分)
【14】	音楽演奏会事前指導～音楽演奏を楽しむために～	講演	【予習】演目をYoutubeやCDなどで試 聴する (30分) 【復習】講義の内容を感想文にまとめ る (30分)
【15】	第2回日本語診断テスト	試験	【予習】中高で習った漢字の復習をす る (30分) 【復習】試験を振り返り、復習する (1時間)

評価方法

受講態度 50% (各回の出席カード、講義やグループワークへの参加態度) 提出課題 50%

教科書

キャンパスガイド、「新入学生オリエンテーション」

参考図書

備考

【科目コード】 02BS101L

【担当者】 ・船本孝子・下内新吾・森万里子

【オフィスアワー】 火曜日 5講時、25号館 8階 船本研究室

【実務経験】 各担当者の担当科目の備考欄に記入



【短期大学部言語コミュニケーション学科】

【科目名】 文理学[Bunri-philosophy]

科目番号	13464	担当教員名	堀口 誠信	単位	2単位
科目群	一般	必修・選択	選択	開講期	後期
				対象年次	1年

授業概要

徳島文理大学の建学精神「自立協同」について、本学の歴史とともにその意味を理解する。「なぜ大学で学ぶのか」を理解し、公演・演奏会などを聴き大学生活を豊かにする。論理的思考とプレゼンテーションの訓練。遍路道をたどりながら地域について考察する。また、「数理・データサイエンス・AI入門」（1回～7回）では社会におけるデータ・AI利活用の技術などの最新動向とそれに伴う社会の変化について学ぶ。

到達目標

- (1) 知識・理解；自らの将来像を描くために大学で何をすべきかを理解する。
データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できるようになる。
- (2) 技能・表現；自らの将来像を実現するための方法・技能を磨く。
- (3) 思考・判断；自らの将来を自己責任で決定する。
- (4) 関心・意欲・態度；自らの将来について模索する。

授業計画		授業形態	授業時間外学習
[1]	徳島文理大学の建学精神と歴史（村崎正人事長）	講義	学習したことをまとめる。30分
[2]	なぜ大学で学ぶのか（田村学長）	講義	学習したことをまとめる。30分
[3]	数理・データサイエンス・AI入門① データサイエンス・AIをなぜ学ぶのか - 日本社会の変化 -	講義	学習したことをまとめる。30分
[4]	数理・データサイエンス・AI入門② データサイエンス・AIをどのように学ぶのか - 「文理融合」とは -	講義	学習したことをまとめる。30分
[5]	数理・データサイエンス・AI入門③ データデザイン力を身につけよう	講義	学習したことをまとめる。30分
[6]	数理・データサイエンス・AI入門④ 学習するコンピュータとその応用	講義	学習したことをまとめる。30分
[7]	数理・データサイエンス・AI入門⑤ デジタル社会の基礎知識	講義	学習したことをまとめる。30分
[8]	数理・データサイエンス・AI入門⑥ AI技術とデータ分析の基礎知識	講義	学習したことをまとめる。30分
[9]	数理・データサイエンス・AI入門⑦ データ・AI利活用に必要な統計学の基礎	講義	学習したことをまとめる。30分
[10]	学習ポートフォリオについて	講義	学習したことをまとめる。30分
[11]	各学部・学科での学び	講義	学習したことをまとめる。30分
[12]	各学部・学科での学び	講義	学習したことをまとめる。30分
[13]	各学部・学科での学び	講義	学習したことをまとめる。30分
[14]	地域貢献の取り組み発表会	発表	学習したことをまとめる。30分
[15]	遍路ウォーク：歩き遍路	講義	学習したことをまとめる。30分
[16]	遍路ウォーク：歩き遍路	講義	学習したことをまとめる。30分
[17]	遍路ウォークを終えて発表会（学部代表）	発表	学習したことをまとめる。30分
[18]	徳島県政について（徳島県知事）	講義	学習したことをまとめる。30分

評価方法

提出レポート80% 学習態度20%による評価点
評価フィードバックは面談時のおこなう。

教科書

プリント配布

参考図書

備考

担当：堀口、金澤
科目ナンバー：02BS101L
オフィスアワー



【短期大学部商科】

【科目名】 文理学

科目番号	12822	担当教員名	森本 卓治	単位	2単位		
科目群	一般	必修・選択	選択	開講期	後期	対象年次	1年
授業概要							
<p>新入生が建学精神である「自立協同」や大学の使命・目的等を理解し、勉学に進進する強い意志と卒業に至る勤勉な態度を持ち、学生の本分を全うできるように学ぶ。また、「数理・データサイエンス・A I入門」（1回～7回）では社会におけるデータ・A I利活用の技術などの最新動向とそれに伴う社会の変化について学ぶ。</p>							
到達目標							
<p>1.知識・理解 「建学の精神」をより深く理解し、本学の学生としてのアイデンティティー、所属感、連帯感を持ち、地域と関わりながら目標を持って豊かな学生生活を送ることができる。 データ・A Iによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、データ・A Iを活用する価値を説明できるようになる。</p> <p>2.技能・表現 大学教育を受けるために必要な基礎的な学習技術を身につけ、円滑に大学教育を受けることができる。</p> <p>3.思考・判断 自分の卒業後の進路、ライフプラン・キャリアプラン等について考え、目標を持ち 意欲的に大学の学習に取り組むことができる。</p> <p>4.関心・意欲・態度 大学生活の場となる地域について学び、地域の一員としての役割や卒業後に担う責任及び取り組むべき課題等の意識を持って学生生活を送ることができる。</p>							
授業計画				授業形態		授業時間外学習	
[1]	徳島文理大学の建学精神と歴史（村崎正人理事長）			文理学：全学部共通講座 I		講演内容をまとめ、レポートを提出する 1時間	
[2]	なぜ大学で学ぶのか（田村学長）			文理学：全学部共通講座 I		講演内容をまとめ、レポートを提出する 1時間	
[3]	遍路ウォーク事前研修 学習ポートフォリオについて			文理学：学部学科別スタ ディスキルズ		授業の振り返り 30分	
[4]	遍路ウォーク			文理学：地域学		配布されたパンフレットなどを見直し、新入生セミナーの目的と内容を理解する。 30分	
[5]	数理・データサイエンス・A I入門① データサイエンス・A Iをなぜ学ぶのか - 日本社会の変化 - 総合政策学部 青野 透 先生			文理学：全学部共通講座 II		授業の振り返り 30分	
[6]	数理・データサイエンス・A I入門② データサイエンス・A Iをどのように学ぶのか - 「文理融合」とは - 総合政策学部 松村 豊大 先生			文理学：全学部共通講座 II		授業の振り返り 30分	
[7]	数理・データサイエンス・A I入門③ データデザイン力を身につけよう 人間生活学部 古本 奈奈代 先生			文理学：全学部共通講座 II		授業の振り返り 30分	
[8]	数理・データサイエンス・A I入門④ 学習するコンピュータとその応用 理工学部 河合 浩行 先生			文理学：全学部共通講座 II		授業の振り返り 30分	
[9]	数理・データサイエンス・A I入門⑤ デジタル社会の基礎知識 理工学部 古谷 彰教 先生			文理学：全学部共通講座 II		授業の振り返り 30分	
[10]	数理・データサイエンス・A I入門⑥ A I技術とデータ分析の基礎知識 理工学部 山本 由和 先生			文理学：全学部共通講座 II		授業の振り返り 30分	
[11]	数理・データサイエンス・A I入門⑦ データ・A I利活用に必要な統計学の基礎 人間生活学部 松本 新功 先生			文理学：全学部共通講座 II		授業の振り返り 30分	
[12]	地域貢献の取組み発表会			文理学：地域学		「地域貢献について」のレポート（400字）にまとめる。 1時間	

【13】	大学での学びについて	文理学：学部学科別スタ ディスキルズ	授業の振返り 30分
【14】	大学での学びについて	文理学：学部学科別スタ ディスキルズ	授業の振返り 30分
【15】	徳島県政について（仮）	文理学：地域学	講演内容をまとめ、レポートを提出す る 1時間

評価方法

- ①レポート（講評を行い、Google Classroomでフィードバックする）80%
②平常点（授業態度、取り組み姿勢など）20%

教科書

特になし

参考図書

適宜紹介する。

備考

講義の順番等については都合により変更する場合がある。

他科目と同様に100点によって評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

オフィスアワー：月～金、9時～17時（原則、原則外は要相談）ただし、会議・授業・先約ない場合 25号館10階研究室

科目ナンバー：02BS101L

実務経験：1985年～2019年 百十四銀行勤務 主に営業店管理・融資・国際業務担当



【短期大学部音楽科】

【科目名】 文理学

科目番号	12476	担当教員名	井村 幸子	単位	2単位		
科目群	一般	必修・選択	選択	開講期	後期	対象年次	1年
授業概要							
<p>本学の建学精神及び歴史についての講話、「大学とは」と題しての講話、将来の進路とかキャリアガイダンスについての講演及び大学での学修活動を円滑に行うために必要な基礎的な知識・技術などについての講義や演習を行い、学生が充実した大学生活を送ることができるように支援する。また、「数理・データサイエンス・AI入門」（1回～7回）では社会におけるデータ・AI利活用の技術などの最新動向とそれに伴う社会の変化について学ぶ。</p>							
到達目標							
<p>・学生が充実した大学生活を送れるように支援する。この授業は以下のことを目標としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「建学の精神」をより深く理解し、本学の学生としてのアイデンティティー、連帯感をもち、日標を持って豊かな学生生活を送ることができるようにする。 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できるようになる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 2. 卒業後の進路、ライフプラン・キャリアプラン等について考え、学習目標をもち意欲的に大学での勉学・研究活動に取り組むことができるようにする。（思考・判断）（関心・意欲・態度） 3. 基礎的な学習技術(スタディ・スキルズ)を身につけ、円滑に大学教育を受けることができるようにする。 							
授業計画							
授業計画	授業形態	授業時間外学習					
【1】 「徳島文理大学の建学精神と歴史」についての講話（村崎理事長）	講義	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					
【2】 なぜ大学で学ぶのか（学長）	講義	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					
【3】 (4/27-4) 数理・データサイエンス・AI入門① データサイエンス・AIをなぜ学ぶのか－日本社会の変化－（総合政策学部 青野 透 先生）	講義	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					
【4】 (5/11-4) 数理・データサイエンス・AI入門② データサイエンス・AIをどのように学ぶのか－「文理融合」とは－（総合政策学部 松村 豊大 先生）	講義	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					
【5】 (5/18-4) 数理・データサイエンス・AI入門③ データデザインを身につけよう（人間生活学部 古本 奈奈代 先生）	講義	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					
【6】 (5/25-4) 数理・データサイエンス・AI入門④ 学習するコンピュータとその応用（理工学部 河合 浩行 先生）	講義	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					
【7】 (6/1-4) 数理・データサイエンス・AI入門⑤ デジタル社会の基礎知識（理工学部 古谷 彰教 先生）	講義	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					
【8】 (6/8-4) 数理・データサイエンス・AI入門⑥ AI技術とデータ分析の基礎知識（理工学部 山本 由和 先生）	講義	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					
【9】 (6/15-4) 数理・データサイエンス・AI入門⑦（人間生活学部 松本）	講義	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					
【10】 地域学：四国八十八か所遍路道をたどって（学部学科毎）	フィールドワーク	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					
【11】 地域学：地域貢献の取り組み発表会（地域連携センター）	講義	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					
【12】 地域学：徳島県政について（徳島県知事）	講義	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					
【13】 インターナショナル冬期講習1	講義と演習	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)					

【14】	インターナショナル冬期講習2	講義と演習	本時の復習(90分) 次時の予習(90分)
【15】	インターナショナル冬期講習3	講義と演習	本時の復習をし、レポートを書く(90分) 次時の予習(90分)

評価方法

評価1[70%]: 毎時のレポート(感想)、評価2[30%]: プレゼンテーション、リフレクションペーパーなどの課題提出。
課題等へのフィードバックは、Google Classroomによっておこなう。

教科書

特になし

参考図書

随時プリント等の資料を配布

備考

オフィスアワー : 月曜日3コマ : 5715室
実務経験なし。
科目ナンバー : 01BS101L

令和5年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)開講状況

本教育プログラムは、全学共通教育科目である1 文理学「数理・データサイエンス・AI入門」と2「情報リテラシー」から構成されており、修了要件は「文理学」2単位と「情報リテラシー」1科目2単位、計2科目、4単位を取得すること。
開講状況については、下の表に示すように、「文理学」、「情報リテラシー」ともに全学科に開講している。

1 文理学「数理・データサイエンス・AI入門」

学 科	授 業 内 容	担 当 者	学 年・前 後	一・専	選・必	単 位 数
生活科学科生活科学専攻 生活科学科食物専攻 保育科 言語コミュニケーション学科 音楽科 商科	① データサイエンス・AIをなぜ学ぶのか － 日本社会の変化 －	青野 透	1年前期	一般	選択	2単位
	② データサイエンス・AIをどのように学ぶのか － 「文理融合」とは －	松村 豊大				
	③ データデザイン力を身につけよう	古本奈奈代				
	④ 学習するコンピュータとその応用	河合 浩行				
	⑤ デジタル社会の基礎知識	古谷 彰教				
	⑥ AI技術とデータ分析の基礎知識	山本 由和				
	⑦ データ・AI利活用で必要な統計学の基礎	松本 新功				

2 情報リテラシー

学 部	学 科	科 目 名	担 当 者	学 年・前 後	一・専	選・必	単 位 数
短期大学部	生活科学科生活科学専攻	情報リテラシー	則包 光徳	1年後期	一般	選択	2単位
	生活科学科食物専攻	情報リテラシー	則包 光徳	1年前期	一般	選択	2単位
	保育科	情報リテラシー	則包 光徳	2年前期	一般	選択	2単位
	言語コミュニケーション学科	情報リテラシー	則包 光徳	1年前期	一般	選択	2単位
	音楽科	情報リテラシー	則包 光徳	1年後期	一般	選択	2単位
	商科	情報リテラシー	則包 光徳	1年前期	一般	選択	2単位

一般総合科目表

別表1 一般総合科目

科目区分	授業科目	単位	単位修得の記録				備考
			1年次		2年次		
			前期	後期	前期	後期	
一般総合科目	人文科学関係科目	哲学	(2)				
		倫理	(2)				
		歴史	(2)				
		文学	(2)				
		美術	(2)				
		音楽	(2)				
		ことばと表現	(2)				
	社会科学関係科目	法	(2)				
		くらしと法(日本国憲法を含む)	(2)				
		心理学	(2)				
		経済学	(2)				
		社会学	(2)				
		地理学	(2)				
		社会生活とマナー	(2)				
	自然科学関係科目	統計	(2)				
		物理学	(2)				
		化学	(2)				
		生物学	(2)				
		自然科学総論	(2)				
		情報リテラシー	(2)				
	総合科目	総合科目 A	(2)				
		総合科目 B	(2)				
		総合科目 C	(2)				
		総合科目 D	(2)				
		総合科目 E	(2)				
	外国語科目	英語 A	① (1)				
		英語 A	② (1)				
英語 B		① (1)					
英語 B		② (1)					
仏語 A		① (1)					
仏語 A		② (1)					
外国語総合科目 A		① (1)					
外国語総合科目 A		② (1)					
外国語総合科目 B		① (1)					
外国語総合科目 B		② (1)					
外国語総合科目 C		① (1)					
外国語総合科目 C		② (1)					
体育・スポーツ科目	健康スポーツ A	(1)					
	健康スポーツ B	(1)					
	スポーツ科学理論	(1)					
	文理学	(2)					
	総合ゼミナール	(2)					

《履修上の注意》

人文科学関係科目，社会科学関係科目，自然科学関係科目，総合科目，外国語科目，体育・スポーツ科目，文理学，総合ゼミナールより計8単位以上（ただし，人文系，社会系，自然系は，それぞれ2単位以上を含むこと。）。

なお，外国語科目の「英語A①」「英語A②」「英語B①」「英語B②」のうち2科目計2単位，体育・スポーツ科目の2単位，総合科目の2単位，総合ゼミナールの2単位は，専門教育科目の単位にかえることができる。

①生活科学専攻，言語コミュニケーション学科，音楽科及び商科においては，「ことばと表現」，「くらしと法（日本国憲法を含む）」，「社会生活とマナー」，「情報リテラシー」を必修とする。

②食物専攻で栄養士免許を取得しようとする者は，必ず外国語科目の「英語」2単位を必修とする。

③音楽療法士2種を取得しようとする者は，必ず「心理学」，「英語A①」，「英語A②」の単位を修得すること。

Ⅷ 諸規程

徳島文理大学短期大学部学則（抜粋）

第1章 総 則

第1条 本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、一般教育と密接な関係を保ちつつ広くそれぞれの専門教育の理論と実際について教育し、中正穩健なる人格を涵養するとともに、我が国文化の高揚と地域の発展に貢献する有為な人材を育成することを目的とする。

第2条 本学は徳島文理大学短期大学部と称する。

第2章 修業年限、学科、及び教育研究上の目的

第3条 本学の修業年限は2か年とする。
ただし、最長在学年限は4か年とする。

第4条 本学に次の学科を置く。

生活科学科 生活科学専攻
食物専攻

保育科
言語コミュニケーション学科
音楽科
商 科

2 各学科、専攻の教育研究上の目的は次のとおりとする。

(1) 生活科学科は、生活、すなわち衣食住に関する学術を教授研究し、健康で快適な暮らし方に関わる専門的知識・技能を身につけ、時代や地域のニーズに応えられる人材を養成する。

①生活科学専攻は、衣食住における「ものづくり」をとおして、創造力、問題発見・解決能力を身につけ、「生きる情熱」と「素の考える力」のある人材を養成する。

②食物専攻は、食生活に関する領域の学術を教授研究し、栄養士、栄養教諭、フードスペシャリスト、食品科学技術認定証の資格を取得し、食のスペシャリストを養成する。

(2) 保育科は、次世代を担う子どもの成長と幸福を支援できる専門的知識・技能を習得し、保育を創造する能力、豊かな感性と総合的実践力を備えた人材を養成する。

(3) 言語コミュニケーション学科は、プレゼンテーション技術を身につけることを教育の核にし、日本語・英語の表現能力、情報機器の効果的な利用法を習得し、地域社会に貢献できる人材を養成する。

(4) 音楽科は、音楽学に関する学術を教授研究し、音楽にかかる専門的知識・技能、豊かな教養を備え、実社会に貢献できる人材を養成する。

(5) 商科は、ビジネスにかかわる学術を教授研究し、情報処理技能をはじめ、商業の領域にかかる専門的知識・技能、企業で生かせる豊かな教養、コミュニケーション力を備え、実社会に貢献できる人材を養成する。

第3章 授業科目及び履修方法

第5条 授業科目は一般総合科目、専門教育科目及び教職等に関する科目とする。その授業科目及び単位数は別表1、2、3、4、5のとおりとする。

第5条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技

のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 本学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

第6条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究、卒業制作については、学修の成果を評価して単位を授与することが適当と認められる場合には、これに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

第7条 一年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。

2 本学を卒業するためには次に定めるところにより62単位以上を修得しなければならない。

一般総合科目

人文系、社会系、**自然系**、総合科目、外国語科目、体育・スポーツ科目、**文理学**、総合ゼミナールより計8単位以上。(ただし、人文系、社会系、自然系は、それぞれ2単位以上を含むこと。)

なお、外国語科目の「英語A①(1)」、「英語A②(1)」、「英語B①(1)」、「英語B②(1)」のうち2科目計2単位、体育・スポーツ科目の2単位、総合科目の2単位、総合ゼミナールの2単位は専門教育科目の単位にかえることができる。

専門教育科目

生活科学科 生活科学専攻 ————— 54単位
食物専攻 ————— 54単位

保育科 ————— 54単位

言語コミュニケーション学科 ————— 54単位

音楽科 ————— 54単位

商 科 ————— 54単位

第8条 教員免許状を取得しようとする者は、前条に規定する各科目の単位を修得し、かつ教育職員免許法及び同法施行規則に規定する単位を修得しなければならない。各科の取得教員免許状は次のとおりとする。

生活科学科生活科学専攻
中学校教諭2種免許状（家庭）

生活科学科食物専攻
栄養教諭 2種免許状

保育科 幼稚園教諭2種免許状

言語コミュニケーション学科
中学校教諭2種免許状（国語）
中学校教諭2種免許状（英語）

音楽科 中学校教諭2種免許状（音楽）

第9条 生活科学科食物専攻において栄養士の資格を取得し

徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部
数理・データサイエンス・AI教育推進委員会規程

(設置)

第1条 徳島文理大学及び徳島文理大学短期大学部（以下「本学」という。）に、数理・データサイエンス・AI教育の推進を図るため、徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部数理・データサイエンス教育推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会は、前条の設置目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 数理・データサイエンス・AI教育のプログラム（以下、「本プログラム」という。）の構成・内容・サポート体制に関すること
- (2) 本プログラムの推進に関すること
- (3) 本プログラムの自己点検・評価に関すること
- (4) 本プログラム改善・進化に関すること
- (5) その他数理・データサイエンス・AI教育に関すること

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長
- (2) 関係学部長
- (2) 本プログラムの授業科目を担当する教員
- (3) 情報センター長及び情報センター職員
- (4) 事務局として教務部職員
- (5) その他委員会が必要と認める者

2 前項第5号の者については、必要に応じて、その都度選任する。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長が指名する委員をもって充てる。

(事務)

第5条 委員会の事務は、教務部において処理する。

(その他)

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し、必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

大学等名	徳島文理大学
教育プログラム名	徳島文理大学短期大学部 数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度



徳島文理大学短期大学部 数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム取組概要

【プログラムの目的】

本プログラムは、今後のデジタル社会において、「数理・データサイエンス・AI」を日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身につけ、自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できる人材を育成することを目的とする。

【学修成果】

- ・今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。
- ・学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。

【修了要件】

「文理学」(2単位)と「情報リテラシー」(2単位)の計2科目、4単位を取得すること。

【実施体制】

「徳島文理大学数理・データサイエンス・AI教育推進委員会」において、プログラムの自己点検・評価をおこなうとともに、その結果をもとにプログラムの改善・充実を図る。

【プログラムの構成科目】

全学共通教育科目	単位数	学部・学科	情報処理系科目	単位数
文理学 「数理・データサイエンス・AI入門」 第1回～第7回	2単位	生活科学科生活科学専攻 生活科学科食物専攻 保育科 言語コミュニケーション学科 音楽科 商科	情報リテラシー	2単位

